

# 被災着物再生の記事読み採用直訴 奈良の大内さん、仙台に

創業1921年、仙台市若林区荒町の奥江呉服店にこの春、約30年ぶりに新入社員が入った。奈良市の和裁専門学校で5年間学んだ大内結花さん(23)。インターネットで読んだ河北新報の記事で同店を知り、「私を採用してください」と直訴。新卒採用の予定がなかった店を翻意させ、600キロの「遠距離就職」を果たせた。

## 老舗呉服店 30年ぶり ルーキー



大内さんは昨春、就職活動で各地の呉服店を調べていて、2013年9月25日の河北新報夕刊の記事に目を留めた。書いたのは河北新報社で2週間、インターン(就業体験)に挑んだ大学生4人組。東日本震災の津波で傷んだ客の着物の再生に奔走する店の奮闘を伝える内容だった。

「お客さま第一の姿勢が伝わってきて、この店で働きたいと強く思った」と大内さん。仙台は長野市で暮らす両親の出身地。自身も3歳まで過ごしたことも背中を押した。手紙を送った後、自分で縫った着物を持参して熱意を伝えた。

同店は経営者夫婦2人にパート2人の小所帯。和服業界の縮小が続く中、新卒者の採用にためらいがあったが、「若い感性で業界に新風を吹き込んでもらおう」と踏み切った。おかみの佐藤東代さん(48)は「手紙はもちろん、会ってさらに『今どき珍しい若者』という好印象を強くした。専門学校は5年間、無遅刻・無欠席。和裁の技能もある彼女なら店を引っ張ってくれると感じた」と振り返る。

### 「若者と和装つなぎたい」



おかみの佐藤さん(右)から着物の畳み方を学ぶ大内さん

仙台市若林区荒町の奥江呉服店

## 「加

神

1997年の続児童殺傷事件年の土師淳君が殺害されてからとなるのに今の父、守さんの社に手記を公表男性(33)による

### 土師守さん

手記の全文は次  
この5月24日  
19回目の命日がや  
族は、19年前のあ  
のこのように鮮  
年経とうとも、親  
ることはありませ  
今年、加害男  
ていませぬ。私た  
彼とはもう関わり  
います。

昨年6月に、加  
に何の断りも無く  
けるような手記を  
の重大事件の加害  
罪に関する書籍を  
者の精神へのさら

### バイオリ

### セミナー

### 第6回仙台音楽

第6回仙台音楽  
クール(仙台市の  
のバイオリン部  
日に終わり、出  
うち12人がセミ  
へ進んだ。